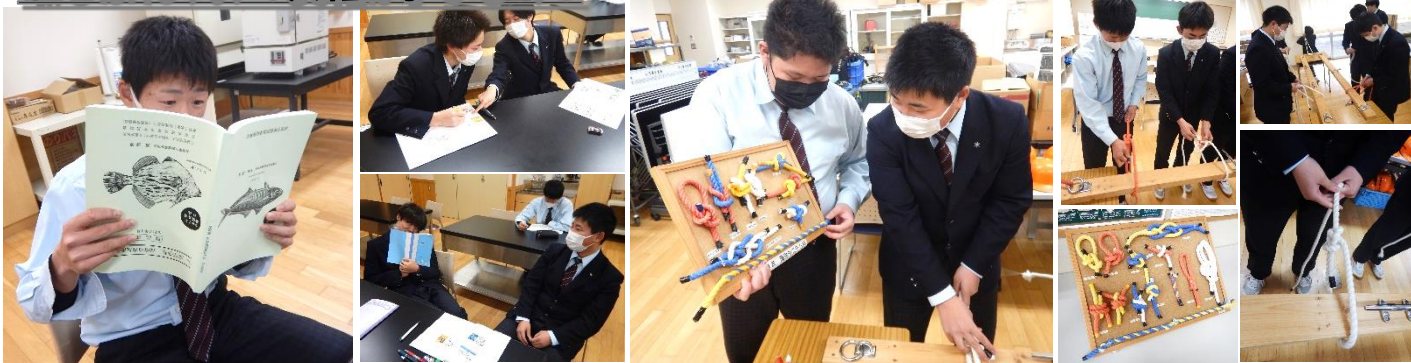




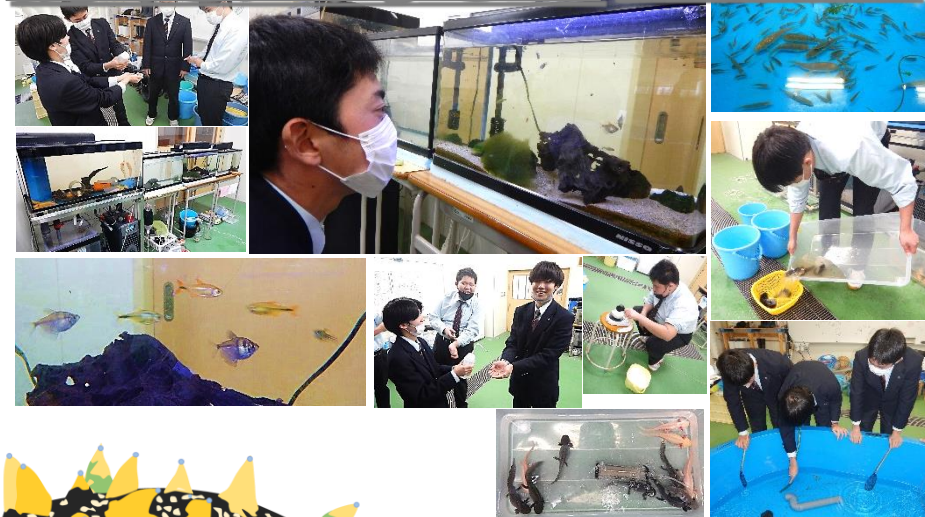
# 海洋システム科通信 1月号

## 取るだけじゃない！資格は学ぶもの！（栽培漁業技術検定 受験）



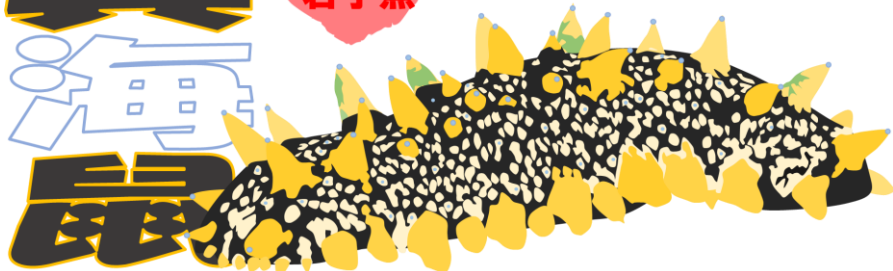
## 飼うという学び！（水生生物飼育実習）

2年生の生徒が、栽培漁業技術検定を受験し、見事、全員合格した！海の生き物や環境、養殖技術に関する知識を学び、ローワークや海水成分を測定する技術を身に付けた！



# マナコ 真 海 鼠

今旬  
岩手魚



“生き物を知らずして、養殖はできない！”ということで、海洋システム科では色々な水生生物を飼育している！ウーパールーパーの繁殖に成功したら、来年度の文化祭で販売するかも？！

## 先生の独り言 vol.10 「ピッコロになる覚悟、ありますか？」



生き物は二つしかない。光合成によって栄養を得る「植物」と、他の生き物を食べて栄養を得る「動物」である。生物学には、この法則性に基づいた一つの常識がある。“動物は光合成ができない”というものだ。しかし、そんなルールお構いなしの動物もいる。その名も「エリシア・クロロティカ」。光合成を行うウミウシである。

エリシア・クロロティカはアメリカの塩沼に生息し、何も食べずに光合成だけで生きる。ただし、生まれた時から光合成ができるわけではない。子供のころは、植物の一種である藻類を食べて暮らしている。この時、藻類のもつ葉緑体を細胞に取り込むことで光合成ができるようになる。「人も野菜を食べれば光合成ができるようになるのでは？」と考えるかもしれないが、通常、植物の葉緑体は動物の消化管できれいに分解されてしまう。また、仮に取り込めても葉緑体を動かせるために必

要な遺伝子を持たないため光合成は行えない。ちなみに、エリシア・クロロティカがどのように葉緑体を動かしているのかはわかっていない。

現在、人類は食糧問題に直面している。人が限りある資源を食べて生きていることを考えれば、この問題の解決は容易ではない。しかし、人が光合成のみで生きられたなら、状況は一変するに違いない。その意味で、エリシア・クロロティカの研究が進み、葉緑体をどのように働かせているのかが明らかとなれば、人類存続の希望となるだろう。余談だが、植物が緑色なのは葉緑体を持っているためである。つまり、人が光合成を行えるようになったなら、その見た目はドラゴンボールのピッコロのようになる。・・・人類存続に必要なものは、光合成ができるようになるための技術と、ピッコロとなって生きる覚悟かもしれない。

